



# 学校だより

令和5年10月31日

## 11月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yabe/>

横浜市立矢部小学校

校長 山口 恭史

### 夢中になることから・・・

校長 山口恭史

先日は運動会の参観ありがとうございました。子どもたちの頑張りがたくさんつまった運動会になったこと、嬉しく思います。保護者の皆様には、譲り合っの参観にご協力をいただきありがとうございました。また、PTAの方々にはたくさんのお手伝いをいただき感謝申し上げます。

さて、「一意専心(いちいせんしん)」という四字熟語があります。他に心を動かされず、ひたすら一つのこと心に注ぎ、集中するという意味です。人が成長していく過程には、必要なことだと思います。

自分のこれまでを思い返しても、わき目も振らず頑張っていた時期がありました。学生時代はスポーツに打ち込み、選手や指導者としてサッカーに没頭していました。技術が向上しただけでなく、そのことを通して多くの人と出会い、生きる上で大切なことをたくさん学ぶことができたと感じています。教師になってからも、一人前の教師になるべく、無我夢中になっていた頃がありました。その時期に人間的にも一番成長できたと感じています。今思うことは、やはり一生懸命継続すること、地道に頑張ることはとても大切で尊いということです。

ずっと運動から離れていましたが、10年程前からランニングを始めました。走るのは苦しい時もありますが、とても気持ち良く、楽しさと喜びを感じることができます。自分の喜びの感じ方は昔とあまり変わっていないことにも気づきました。学生時代に楽器の演奏をしていた娘は、演奏している時に喜びを感じるとよく言っていました。その娘に「走るの楽しいけど、やはりきつい時があるんだよね。でもあなたはいいね、楽器だから。頑張り続けなくても、ずっとこれからも楽しめるよ。」と言ったことがありました。娘は瞬時にこう私に言いました。「それは違う。楽器だって演奏できればいいってもんじゃない。よい音が出せないと納得がいかないし、よい音が出せて初めて喜びを感じられる。よい音を出すにはやはり繰り返し練習しないとイケない。」その時私は、毎日コツコツ積み重ねることが何にでも必要であり、やはり本当の喜びや成長は、頑張ったその先にあると改めて感じました。

矢部小学校では、学習や委員会・クラブ活動、そして休み時間には遊びに夢中になっている姿が多く見られます。子どもたちが夢中に活動しながら喜びを感じ、成長できるような学校になるよう、職員一同取り組んでいきたいと思ひます。これからも、学校へのご協力やご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。